

事業番号	15 02 01	事業改善シート（令和 6 年度実施事業分）	□当初要求	□当初予算案	□補正予算案	■点検
事業名	これからの学び、これからの学校教育づくり事業費		部局	教育委員会事務局	課・室	義務教育課
			実施期間	不明 ～	E-mail	gimukyo @ pref.nagano.lg.jp

1 現状と課題

- ①子どもたちの多様化が一層進展する状況等を踏まえ、誰一人取り残すことなく、全ての子どもたちの可能性を引き出す教育をいっそう進め、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を実現する必要がある。
- ②教員の長時間労働を解消するための様々な取組によって、ある程度の業務負担軽減が図られたものの、大きな改善までにはつながらず、現場において手詰まり感がある。教員が授業改善に取り組む時間や子どもと向き合う時間を確保し、教員一人ひとりが持っている力を高め、発揮できる環境を整えていく必要がある。
- ③採用選考志願者数が減少している。そのため、信州の教員の魅力を発信するとともに、優秀な人材が受験し易くなるような選考方法にする必要がある。

2 事業目的

児童生徒一人ひとりの学校教育活動の充実と教員の負担軽減を図る。

3 事業目的を達成するための取組

- ①**少人数教育・個別最適な学び**
- ・児童生徒の一人ひとりに応じたきめ細かな指導・支援を行い、学習習慣の確立と基礎学力の定着を図るため、30人規模学級編制や少人数学習集団編成等に必要な教員を配置
 - ・小学校高学年における教科担任制を推進するための専科指導教員を配置
- ②**教員の働き方改革**
- ・働きがいと働きやすさを実感できる職場環境づくりを目指して、引き続き時間外勤務時間の縮減を図るとともに、健康で生き活きたとした豊かな教員生活を推進するための取組を検討
 - ・学校の当たり前を見直すために、専門的な知見を取り入れた伴走型支援による業務改善を行うことを検討
 - ・教員が本来業務に注力できる環境を整備するとともに長時間勤務を解消するため、支援員を配置
- ③**教員の採用、質の向上**
- ・質の高い人材を確保するため、二次選考（面接）において多面的・客観的に評価できるよう民間人面接官を起用
 - ・専門性や教職経験を生かせる採用枠を設置
 - ・新規採用、中堅、役付等の事務・栄養職員を対象とした研修に大学講師や異業種の講師を招く

4 成果指標

（推移の凡例 ↗：改善 ↘：悪化 →：変化なし —：数値なし）

No.	指標名	単位	R4年度	R5年度		R6年度		R6年度 目標値	達成 状況	目標値設定理由
			実績	実績	推移	実績	推移			
①-1	算数・数学の授業の内容がよく分かると答えた児童生徒の割合	%	81.0	78.0	↘	81.0	↗	81.5	未達成	加配教員の活用による学びの充実を一層図り、全国学力学習状況調査において児童の割合85.0%、生徒の割合78.0%、全体の割合81.5%を目指す。(R5見込み：児童81.5% 生徒74.5% 全体78.0%)
①-2	専科指導教員配置校において、「5年生までに受けた授業は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した児童の割合	%	82.3	80.6	↘	84.0	↗	83.0	達成	教科担任制の目的である質の高い授業を検証できる指標として、R4の実績、R5の見込値を参考に、83.0%を目指す。
②-1	全小中学校のうち、12月の時間外勤務時間一人当たり45時間以下の学校数の割合	%	76.5	84.9	↗	91.9	↗	90.0	達成	指針において、時間外勤務時間一人当たり月45時間以下が定められている。100%を目指し年々実績を高めていく必要がある。
②-2	教員業務支援員が役に立たと答える学校の割合	%	100	100	→	100	→	100	達成	R6は配置校をさらに拡大するとともに、既配置校の効果的な活用の維持を図るため、前年度同様の100.0%を目標とする。
③	教員志願者数	人	1,514	1,482	↘	1,427	↘	1,527	未達成	小学校倍率を質の担保の目安数とされる3倍にするためには本年度より99名増と必要がある。そのためにも来年度は半分の45名程度の増を目指す。

5 本事業が貢献する総合5か年計画の施策分野と達成目標

No.	施策分野（施策の総合的展開名）	達成目標 （☆印が付いているものは主要目標）	単位	直近3か年の状況						目標	
				年／ 年度	数値	年／ 年度	数値	年／ 年度	数値	年／ 年度	数値
5-1①	一人ひとりが自分にとっての幸せを実現できる学びの推進	「学校へ行くのが楽しい」と答える児童生徒(小6、中3)の割合	%	2022 (R4)	82.0	2023 (R5)	82.4	2024 (R6)	84.5	2027 (R9)	83.7
5-2①	一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境の創出	「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」と答える児童生徒(小6、中3)の割合	%	2022 (R4)	78.1	2023 (R5)	77.4	2024 (R6)	79.0	2027 (R9)	76.5
5-2①	一人の子どもも取り残されない「多様性を包み込む」学びの環境の創出	☆「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていた」と答える児童生徒(小6、中3)の割合	%	2022 (R4)	81.1	2023 (R5)	84.2	2024 (R6)	81.9	2027 (R9)	81.1

6 事業コスト

(単位：千円、人)

区分	予算額					決算額	職員数
	前年度繰越	当初予算	補正予算等	合計 (予算現額)	うち一般財源		
R6年度	0	3,585,952	0	3,585,952	2,440,230	3,555,538	11.0
R5年度	0	3,644,066	0	3,644,066	2,475,632	3,616,425	10.0
R4年度	0	3,667,944	0	3,667,944	2,482,893	3,652,201	9.0

事業番号	15 02 01	事業改善シート（令和 6 年度実施事業分）			☐ 当初要求 ☐ 当初予算案 ☐ 補正予算案 ☒ 点検		
事業名	これからの学び、これからの学校教育づくり事業費		部局	教育委員会事務局	課・室	義務教育課	

7 主な取組実績と成果

①少人数教育・個別最適な学び

・小中及び義務教育学校における30人規模学級編制など、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を行うことにより、学習指導・生活習慣の確立と基礎学力の定着を図った。

【学習習慣形成支援事業】小1、小2対象 複数教員による支援・指導（TT）

【30人規模学級編制事業】 小6、中1～中3対象 30人規模（35人基準）学級編制

【少人数学習集団編成】小3～小6、中1～中3対象

習熟の程度に差が生じやすい教科で30人以下の学習集団を編制（小：算数、中：数学、英語）

【不登校児童生徒支援】中1～中3対象 不登校・不適応児童生徒の適応指導・支援

【小学校高学年教科担任制に係る専科教員の配置】 外国語、理科、算数、体育の専科教員を配置

②教員の働き方改革

・働き方改革先進エリア（１市町村教育委員会、小学校１校、中学校１校）を設定し、専門家とともに教員業務の課題洗い出しや日課等の見直しを実施。12月の時間外勤務時間が前年度から３％減少した。

- ・教員業務支援員配置事業においてプリント印刷や採点補助等の学校業務をサポートする支援員の配置を行った。

・副校長・教頭マネジメント支援員配置事業において、教頭等が行っている多岐にわたる業務の一部をサポートする支援員の配置を行った。

③教員の採用、質の向上

・優秀な人材確保のため、心理学的、科学的な知見を活かした面接において、民間人面接官を起用し、多面的・客観的評価を実施した。また、オンラインでの採用選考説明会や、高校生を対象とした説明会を計画し、教師の魅力を発信した。

・実践力のある人材を確保するため、他県で正規教員として働く長野県出身者や長野県への移住を希望する者を対象とした「信州UITターン秋選考」を実施した。

8 成果指標の達成状況に関する要因分析

指標 ①-1	算数・数学の授業の内容がよく分かったと答えた児童生徒の割合	R5年度推移	↘	R6年度推移	↗	達成状況	未達成
30人規模学級編制や少人数学習集団編成等に必要な教員の配置により、算数の授業の内容がよく分かったと答えた児童の割合は82.9%、数学の授業の内容がよく分かったと答えた生徒の割合は79.1%となり、いずれも前年度を上回った。							
指標 ①-2	専科指導教員配置校において、「5年生までに受けた授業は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した児童の割合	R5年度推移	↘	R6年度推移	↗	達成状況	達成
専科指導教員配置校において、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した児童の割合は前年度を上回る83.5%となった。子供の課題意識に寄り添った授業が展開されつつあるものと考えられる。							
指標 ②-1	全小中学校のうち、12月の時間外勤務時間一人当たり45時間以下の学校数の割合	R5年度推移	↗	R6年度推移	↗	達成状況	達成
「働き方通信」を発行することにより、魅力アップUP校の実践について市町村教育委員会及び小・中・義務教育学校へ共有を行った。また、自己の働き方を自己評価する習慣作り、日課や行事の見直し、校務支援システムやICT活用の推進を行うことで時間外勤務時間が減少に繋がったと考えられる。							
指標 ②-2	教員業務支援員が役に立ったと答える学校の割合	R5年度推移	→	R6年度推移	→	達成状況	達成
教員業務支援員が役に立ったと答える学校の割合は、学習プリント等の準備、採点業務や来客・電話対応、児童生徒の健康観察等の効果的なサポートにより、令和5年度に引き続き100%を達成した。							
指標 ③	教員志願者数	R5年度推移	↘	R6年度推移	↘	達成状況	未達成
R5 1,482人 → R6 1,427人 と志願者が減少している。志願者数の減少については、近年全国的なものとなっているが、全ての選考を「ながの電子申請サービス」を用いた出願にしたことや、昨年度設置した「長野県内中学校で学級担任経験のある講師で中学校教諭受験者を対象とした選考」枠が周知されたこと等により、大幅な減少にはならなかった。							

9 今後の事業の方向性

(1) 上記 7、8 及び県民の意見等を踏まえた課題

①少人数教育・個別最適な学び

・小学校高学年における教科担任（専科指導）の配置が進んでいるが、配置校の拡充と並行して、人材の確保が必要である。

②教員の働き方改革

・業務の見直しは一定程度進んだため、引き続き時間外勤務時間の縮減を進める必要がある。

③教員の採用、質の向上

・志願者数が減少している。特に中学校教諭、特別支援学校教諭枠の倍率が低下している。

・事務・栄養職員に対する定期的な研修の実施により、一人一人の職員の能力向上が必要である。

(2) 事業改善の方策

①少人数教育・個別最適な学び

・小学校高学年の単式学級（複式学級、特別支援学級を除いた学級）において、国が優先的に専科指導の対象とすべきとしている「外国語、理科、算数、体育」の4教科で教科担任制に取り組めるよう専科指導教員を追加配置する。

②教員の働き方改革

・勤務時間外時間の縮減（量）と、ワーク・エンゲイジメントを高める取組（質）の両側面から一層の推進を図る。

③教員の採用、質の向上

・採用選考の特別選考枠や猶予制度、試験科目の内容の見直し等、受験生が受験し易いよう選考方法の改善を行う。

・パンフレットやHPを通じて長野県の教員になることの魅力を発信する。

・学生や高校生を対象とした説明会の機会、対象を広げる。

・引き続き事務・栄養職員に対して、より効果的な研修内容を検討し、定期的に研修を実施していく。

事業番号	15 02 01	細事業一覧（令和 6 年度実施事業分）	☐ 当初要求 ☐ 当初予算案 ☐ 補正予算案 ☒ 点検			
事業名	これからの学び、これからの学校教育づくり事業費		部局	教育委員会事務局	課・室	義務教育課

細事業 No.	細事業名		R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額
1	信州少人数教育推進事業費		3,100,800 千円	2,901,900 千円	2,407,200 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和 6 年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	30人規模学級編成	直接	小学校 6 学年：学級平均児童数が 3 5 人を超える学年に教員を配置 中学校 1 ～ 3 学年：学級平均生徒数が 3 5 人を超える学年に教員を配置 配置人数 3 0 6 人		
2	学習習慣形成支援	直接	小学校 1 ・ 2 学年：複数教員による支援・指導（TT）のため平均児童数が30 人を超える学年の学級数に応じ教員を配置 配置人数 5 8 人		
3	少人数学習集団編成	直接	小学校 3 ～ 6 学年・中学校 1 ～ 3 学年：習熟の程度に差が生じやすい教科で、30人以下の学習集団が編成できるよう教員を配置（小：算数、中：数学・英語） 配置人数 7 1 人		

細事業 No.	細事業名		R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額
2	小学校高学年教科担任制・ 信州少人数教育推進事業運用弾力化事業費		311,100 千円	382,500 千円	617,100 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和 6 年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	教科担任制推進のための専科指導教員を配置	直接	小学校高学年の単式学級（複式学級、特別支援学級を除いた学級）において、国が優先的に専科指導の対象とすべきとしている「外国語、理科、算数、体育」の 4 教科で教科担任制を取り組めるよう専科指導教員を追加配置		
			配置人数 7 6 人		
2	専科指導教員の配置	直接	従来から、信州少人数教育推進事業において「少人数指導」を推進している。教科担任制を推進するため、学校の実情に応じて「専科指導」を行うための専科指導教員にも活用できるよう運用を弾力化		
			配置人数 4 5 人		

細事業 No.	細事業名		R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額
3	欠員対策のための教員配置・産育休代替教員の事前配置による子どもの学び継続事業費		－ 千円	35,130 千円	75,360 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和 6 年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	欠員対策のための教員配置	直接	療養休暇や早期退職等により年度途中で急遽欠員が生じた場合に備え、機動的に対応できる教員を配置		
			配置人数 9 人		
2	産育休代替教員の事前配置	直接	年度途中における欠員の抑制を図るため、産育休予定の教員が在籍する学校にあらかじめ代替予定の教員・講師等を配置		
			配置人数 6 人		

細事業 No.	細事業名		R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額
4	学校現場業務改善事業費		321 千円	321 千円	772 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和6年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	魅力アップUPノ校支援	直接	働き方改革先進エリアを設定し、専門家とともに教員業務の課題洗い出しや日課などの見直しを行う。 1 市町村教育委員会、小学校1校、中学校1校		
2	学校現場における働き方改革の推進	直接	学校、市町村教育委員会、保護者等の関係者同士のネットワーク構築のため魅力アップUPノミーティング及び学校現場における働き方改革推進会議を開催した。 魅力アップUPノミーティング：年4回 推進会議：年1回		

細事業 No.	細事業名		R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額
5	学校現場への支援員配置事業費		231,703 千円	286,476 千円	448,292 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和6年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	教員業務支援員の配置	直接	学習プリント等の準備、採点業務や来客・電話対応、児童生徒の健康観察等、教員を強力にサポートする教員業務支援員を概ね4学級以上の公立義務教育諸学校に配置 484人		
2	副校長・教頭マネジメント支援員の配置	直接	調査の回答や、施設管理、保護者やPTAをはじめとする外部との連絡調整等、副校長・教頭が行っている多岐にわたる業務を一部担う副校長・教頭マネジメント支援員を学級数に応じて各地域に配置 22人		

細事業 No.	細事業名		R4年度 決算額	R5年度 決算額	R6年度 決算額
6	教員志願者採用選考・職員研修費事業費		8,277 千円	10,098 千円	6,814 千円
No.	細事業を構成する主な取組	実施方法	令和6年度実施内容（実績）（上段：事業概要、下段：活動によるアウトプット）		
1	優秀な人材確保のための教員採用選考の実施	直接	民間人面接官を起用するなど、多面的・客観的評価を行うことにより、より優れた人材の確保に努めた。 民間人(教育委員会含)のべ130人		
2	教員志願者確保のための大学訪問	直接	大学等の就職担当者又は学生に対して受験や任用について説明会等を行った。 訪問大学28校		
3	事務・栄養職員研修の実施	直接	大学講師等、異業種の講師を招き、外部環境の変化を自ら把握し、自律的に行動できる職員の育成を目指した。 研修会：8回		